

**「全国に誇れる・選ばれるまちづくり事業（日本一施策事業）」  
選定取組一覧（平成27年度に実施した事業）**

**[取組の種類]**

	区分	考え方
①	<b>独自性</b> (日本で唯一、宇都宮独自)	地域の資源やアイデアを活用し、宇都宮らしさや獨創性・独自性があり、「宇都宮オリジナル」や「宇都宮モデル」として全国に誇れるもの
②	<b>先駆的</b> (日本で先駆け)	市民ニーズや時代の趨勢を見据え、全国に先駆けて取り組むもの
③	<b>トップクラス</b> (日本でトップクラス)	活動量やその成果などが客観的・定量的に全国でトップクラスにあるもの

**[取組一覧]**

No.	取組名	概要	区分	開始年度	所管課
<b>【新たに選定した取組】 5取組</b>					
1	大学と連携した「マンガを取り入れた薬物乱用防止啓発冊子」の作成	文星芸術大学と連携し、小中学生が興味を示しやすい「マンガを取り入れた薬物乱用防止啓発冊子」を作成することにより、児童や生徒の薬物乱用防止意識の向上を図るもの。冊子には、携帯可能な「断り方カード」が付加されている。 <b>【新たに選定した理由】</b> 大学と連携したマンガを取り入れた冊子及び啓発カードの作成は、中核市初の取組。	独自性	H27年度	保健所総務課
2	再生可能エネルギーの利活用の推進(住宅用太陽光発電システム設置費補助金)	冬季の日照時間が長いという、本市の地域特性を活かした太陽エネルギーの利活用により、家庭からの温室効果ガス排出量を削減するため、住宅用太陽光発電システムの設置をこれまで促進。 <b>【新たに選定した理由】</b> 資源エネルギー庁が平成26年度から公表を開始した市町村別の再生可能エネルギー等に係るデータにおいて、導入件数および導入容量が中核市第2位。	トップクラス	H15年度	環境政策課
3	はじめてごはん事業	1歳6か月を迎えた子どもがいる家庭に対して特色ある宇都宮産米と啓発パンフレットを配付する「はじめてごはん事業」を実施し、宇都宮産米の認知度を高め、米の消費拡大に繋げる。 <b>【新たに選定した理由】</b> 大人と同じ「ごはん」を食べられるようになる1歳6か月を迎えた子どもをターゲットにした全国的にも先進的な取組	独自性 先駆的	H27年度	農林生産流通課
4	自転車放置防止対策事業(撤去自転車写真の市HPでの公開)	保管所に向くことなく撤去自転車を確認できるよう、自転車の写真と保管場所を市HPで公開 <b>【新たに選定した理由】</b> 写真の掲載により問い合わせをせずに撤去の有無・保管場所が確認できる事業は、他に例がない。	独自性 先駆的	H27年度	道路保全課
5	「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」に基づく取組の推進	携帯電話等に係る問題から児童生徒を守るため、市PTA連合会、市青少年育成市民会議、市小・中学校長会、市教育委員会が「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」を策定(H27.2)。 <b>【新たに選定した理由】</b> 4団体連携の共同宣言は、独自の取組。	独自性	H27年度	学校教育課

No.	取組名	概要	区分	開始年度	所管課
<b>【過去に選定済みの継続した取組】 63取組</b>					
<b>&lt;健康・福祉・安全分野&gt; 13取組</b>					
1	健診PR応援事業	特定健診やがん検診等の受診率向上を目的として、市が実施している全ての健康診査の受診者に対し、「健診PR応援企業として市に登録した企業」による特典サービスの提供を行う。	独自性	H26年度	健康増進課
2	高齢者グループホームにおける国基準を上回る居室床面積の設定	高齢者グループホームの居室の床面積は、国の基準では「7.43㎡以上」としているが、本市では条例で「10.65㎡以上」と規定しており、より広い居住空間を確保することにより、使い慣れた家具等を設置したり、ベッド・車椅子を利用しやすくした。	独自性	H24年度	保健福祉総務課
3	障がいのある人に対する情報バリアフリー推進ガイドラインの策定	障がいのある人が情報を円滑に取得・利用し、意思表示や意思疎通を図れるよう、障がい特性に応じた配慮事項や災害緊急時の対応等を掲載	先駆的	H24年度	障がい福祉課
4	新たな二次救急医療体制の構築	救急告示医療機関の連携を強化し、新たに協力病院を位置づけ、輪番制病院を支える体制を構築・稼働。円滑な救急医療運営体制を確保するため、財政支援等を実施	独自性 先駆的	H21年度	保健所総務課 警防課
5	保健情報誌「みや健康ナビ」の発行	感染症や食中毒予防など、日常生活に密着した保健情報を提供(年1回発行)。モニター調査員制度により、継続的に意見聴取	独自性	H23年度	保健所総務課
6	子育て世代の託児付き子宮がん・乳がん検診の実施	ボランティアサークルの協力のもと、託児が無料でできるがん検診を実施	独自性 先駆的	H26年度	健康増進課
7	自死遺族支援のためのマニュアルの作成	支援を行う者が、自死遺族に対して適切に支援できるよう、遺族への接し方や保険など遺族が行うべき手続きなど必要な知識や情報をまとめ、1,000部作成し、保健師や行政関係職員、民生委員・児童委員、警察官などの自死遺族の支援を行う者に配布した。	先駆的	H26年度	保健予防課
8	妊産婦に対する支援の推進	子どもが欲しいと望んでいるにもかかわらず、子どもに恵まれない夫婦への経済的支援及び安心して妊娠・出産できる支援の体制として、不妊治療費や妊産婦医療費を助成 ・特定不妊治療(体外受精・顕微授精)費について、上限30万(一部17万5千円)まで助成 ・人工授精治療費について、上限3万2千円まで助成(年1回、通算2年)	トップクラス	H21年度	子ども家庭課
9	障がい児発達支援の推進	・全国に先駆け、子ども発達センターを設置し、保健師や保育士、理学療法士等の専門職により、相談から療育まで一貫して対応 ・また、保育園併設専用施設において、発達が気になる乳幼児及びその保護者が自由に利用できる広場を開設し、親子の交流の場を提供するほか、親子の遊びや保育園児との交流を通して心身の発達を促すとともに、子育てに関する相談や助言、必要に応じて関係機関への紹介を行う。	独自性 先駆的	H19年度	子ども発達センター 保育課
10	食品安全条例の制定	食品の安全確保に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための「計画の策定」や不良食品を排除するための「自主回収届出制度」などを規定した条例の制定	独自性 先駆的	H19年度	生活衛生課
11	グリーンアンドレッドリボン運動	市民や地域、事業者などあらゆる機関、団体が一丸となって飲酒運転を許さない地域づくりを進めるために、GRリボンを交通安全運動や地域イベントなどの機会、事業者、学校などを通して市民に配布することで、飲酒運転根絶に係る気運を醸成する。	独自性	H18年度	生活安心課
12	消費生活相談窓口の常時開設	年末年始を除く全ての日において相談窓口を開設	先駆的	H19年度	生活安心課
13	国・県・市災害対策連絡協議会の設置	国、県及び市の連携組織の運営と合同訓練の実施	独自性 先駆的	H19年度	危機管理課

No.	取組名	概要	区分	開始年度	所管課
<b>&lt;教育・学習・文化分野&gt; 26取組</b>					
1	返還免除型育英修学資金貸付制度	大学、短期大学、専門学校(専門課程)の在学者を対象に貸付するもので、奨学生が、最終学校卒業後1年以内に本市に居住し、引き続き、5年間居住を継続することを要件に、返還を免除する制度	先駆的	H26年度	教育企画課
2	「通学路交通安全プログラム」に基づく交通安全対策の推進	通学路の交通安全を確保するため、教育委員会・学校、道路管理者、警察が主体となり、スクールゾーンの設定や考え方や通学路の危険箇所を関係者が合同で点検する手順をまとめたプログラムに基づいた交通安全対策の実施し、平成27年度には市内小学校68校すべての通学路に「スクールゾーン」文字の路面標示を設置	独自性	H25年度	学校健康課
3	宮っ子の誓いの制定	日常生活の中で、子どもたち自らが実践できる行動規範とするとともに、学校や家庭、地域等が一体で子どもを育てための拠り所とした「宮っ子の誓い」を本市独自に制定し、誓いを活用した人づくりを推進	独自性	H19年度	教育企画課
4	学校応援制度	企業名等を掲載した学校用物品(用紙や封筒など)の寄附を積極的に募集する制度	独自性 先駆的	H22年度	教育企画課
5	学校物品有効活用システムへのポイント制導入	学校物品有効活用システムを使用し、学校間の物品の貸借や譲り受けによりポイントを付与し、学校の配当予算に還元・地域学校園ごとに保有物品のリストを作成し、システムの利用拡大を推進	先駆的	H20年度	学校管理課
6	学校応援基金の活用による特色ある学校づくりの推進	学校を特定した寄付金を受け入れるため、「学校応援基金」を創設し、地域と一体となった学校づくりを推進 ・「魅力ある学校づくり地域協議会」が基金を設立し、管理・運営を実施し、地域の支援による特色ある学校づくりを推進 ・「魅力ある学校づくり地域協議会」が独自に運営資金を確保できる仕組みづくりに役立つよう、「学校応援基金ガイドライン」を作成	先駆的	H21年度	学校管理課
7	地域学校園事務室の推進	・中学校区を単位とする地域学校園(中学校1校と小学校2～4校)の学校事務職員で構成 ・地域学校園事務室長を配置し、学校事務の効率化・平準化や教員の負担軽減、地域学校園予算の効果的な執行、職場研修など、各地域学校園の実情に応じたさまざまな取組を実施	独自性 先駆的	H24年度	学校管理課
8	「小中一貫教育・地域学校園」の推進	独自の「会話科」や「宮・未来キャリア教育」「宮っ子心の教育」「元気アップ教育」などの特徴的なカリキュラム、地域教育力を生かした学校教育活動支援 ・学力向上非常勤講師や外国語指導助手の配置 ・月1回程度の「小中一貫の日」による小中教職員の連携 ・事務職員同士が相互支援を行うための地域学校園事務室の設置 ・学校一人配置教職員(養護教諭、事務職員、学校栄養職員等)の連携や、土曜授業の実施 等	独自性	H22年度	学校教育課
9	スタンダードダイアリーの活用による学校と家庭の連携推進(いきいき学校プラン推進事業)	「スタンダードダイアリー」(学校教育スタンダード、宮っ子の誓い、心を育てる50の言葉、食育等の内容を一体的に掲載)を作成し、児童生徒が毎日使用する連絡帳や生活ノートとして活用	独自性 先駆的	H20年度	学校教育課
10	元気っ子健康体力チェック	全ての児童生徒を対象に、「新体力テスト」を実施し、本市独自に体力テストと食を含めた生活習慣に関するアンケート結果を分析し、児童生徒の体力向上や健康保持に活用	独自性	H21年度	学校健康課
11	小・中学校全校及び給食センターへの栄養職員の配置	全市立小中学校で、質の高い給食の提供や食育の指導を進められるよう、栄養教諭・学校栄養職員の未配置校へ、本市独自に学校栄養士業務嘱託員を配置	先駆的	H20年度	学校健康課
12	宇都宮版準備運動「みや!!元気っ子たいそう」の考案	児童生徒の体力や技能を増強する動きを取り入れた宇都宮版準備運動「みや!!元気っ子たいそう」を様々な機会に活用。小中学校教員が内容構成・撮影を行うとともに、保護者が「宇都宮の歌」を編曲し、西原小学校の児童が出演するなど、関係者の手作りにより指導用DVDを作成	独自性	H22年度	学校健康課

No.	取組名	概要	区分	開始年度	所管課
13	「お弁当の日」の実施	お弁当の献立立案等を通じて、食事について親子で共に考える機会を創出し、自分の健康を考え、判断し、実践できる子どもを育成するため、小中9年間の発達段階に応じた本市独自のねらいを設定し、全市立小中学校で「お弁当の日」を実施	独自性 先駆的	H20年度	学校健康課
14	教養講座「宮の朝活」の開催 (前期・後期)	早朝の時間を有効に活用し、多忙で日ごろ講座や勉強会に参加できない20代から40代の学生や就労世代を対象に、各専門分野の最新の時事問題やまちづくり等をテーマとして教養講座を開催。講義後は、講師と朝食をとりながら意見交換、参加者間の交流を促進。 ・後期講座を前期受講者(朝活企画運営委員)との協働による企画・運営(25年度～)	独自性 先駆的	H25年度	生涯学習課
15	宮っ子ステーション事業の推進	学校を拠点に住民等が主体となり、幼児期から学童期までの子どもの育ちを地域ぐるみで支援するなど、宇都宮独自の運営を展開 ・対象となる全ての小学校区毎に、小学校敷地内での開設を基本に、放課後児童健全育成事業を実施しており、放課後児童の安全安心な生活の場を確保 ・放課後児童健全育成事業と放課後子ども教室事業の一体的運営(宮っ子ステーション) ・乳幼児と保護者の交流(平日午前) ・小学校全児童を対象とした体験・交流活動(土曜午前)	独自性	H19年度	生涯学習課
16	視聴覚ライブラリーの運営と市民団体の映画会活動	16ミリフィルム教材貸出本数が、全国でトップクラスの活動を展開 ・Google, Yahoo検索でホームページ検索 全国1位	トップクラス	H15年度	生涯学習課 (視聴覚ライブラリー)
17	うつのみやこども賞	児童自身が優れた図書を選定する事業を実施 ・年間の最優秀作品を「うつのみやこども賞」として顕彰 ・平成14年子どもの読書活動優秀実践図書館として「うつのみやこども賞」が文部科学大臣表彰を受賞。	先駆的	S59年度	生涯学習課 (図書館)
18	「家庭の教育手帳」による家庭における人づくりの推進	小中学校9年間を通した子どもの教育に関する便利帳を作成し、市内全小中学校の保護者へ配付。子どもの学齢期に応じた取組や成長記録、学校の仕組みを一体化させた保護者向け冊子	独自性	H22年度	生涯学習課
19	魅力ある学校づくり地域協議会の設置・運営	・市内全93小中学校区において、①学校運営への参画機能、②学校教育の充実に向けた機能、③家庭・地域の教育力向上に向けた機能を併せ持つ本市独自の運営体制を構築 ・地域住民や保護者による学校経営への参画、地域コーディネーターによる学校支援ボランティアの調整など、学校と地域をつなぐ役割を担う。 ・放課後児童の健全育成を図る「放課後子ども教室」の設立や、学校に対する寄付の受け皿となる「学校応援基金」の設立など、魅力ある学校づくり地域協議会の委員等が主体となって、地域の教育力を生かした児童生徒の健全育成に係る事業を自主的に展開	独自性	H18年度	生涯学習課 学校教育課
20	子どもの読書推進(子どもの読書環境の充実に向けた図書館づくり)	・市立小・中学校全校に学校図書館司書を配置、学校支援室設置(南図書館)、学校支援サービスの拡充等 ・高校生の企画・運営による「高校生のための読書推進事業」の実施や高校生向け情報誌「MIYATEEN」発行(年1回、4,000部 中央図書館)	独自性 トップクラス	H18年度	生涯学習課 (図書館) 学校教育課
21	妖精によるまちづくりの推進	・妖精をテーマとした公立展示施設「妖精ミュージアム」(通年開館)を拠点に、妖精資料を活用した活動を展開	独自性	H15年度	文化課
22	エスペール文化振興事業	・文化芸術活動が顕著で、今後の活躍が期待できる本市ゆかりの芸術家に賞や育成金を授与し、育成・支援する本市独自の制度 ・地元の若手芸術家を育成・支援する取組を行っている自治体は稀有であり、独自性が高い	独自性	H13年度	文化課
23	百人一首のまちづくり	平成7年の市制100周年を機に本市ゆかりの百人一首市民大会を開催。一般市民を対象とした公的機関が主催する大会としては、全国最大規模	独自性 トップクラス	H8年度	文化課

No.	取組名	概要	区分	開始年度	所管課
24	冒険活動教室の実施	全小中学校を対象とした独自の自然体験活動, 各学校の要望に応じた豊富な活動プログラム <ul style="list-style-type: none"> <li>・中一ギャップ解消のため, 地域学校園内の小学校や中学校との交流, 職員連携(23年度～)</li> <li>・小中一貫教育を踏まえ, 小学校での経験を深め, 中学校へ活かすための活動(25年度～)</li> </ul>	独自性	H8年度	スポーツ振興課
25	特別支援教育の推進	中核市で一番早く特別支援教育に関する基本計画を策定するとともに, 全小中学校内に特別支援教室(かがやきルーム)を設置し, 通常の学級に在籍する発達障がい等の傾向にある児童生徒の個別指導や小集団指導を実施。22年度から企業の協力を受け, 中学校特別支援学級生徒を対象とする「写真教室」及び「合同写真展」を開催	先駆的	H20年度	教育センター
26	不登校児童生徒の適応支援事業の推進	全国に類を見ない個別対応型の適応支援教室「まちかどの学校」を設置。1対1の個別対応から開始し, 集団を苦手とする児童生徒にも対応するほか, 約50のゼミ活動を設定し, 個別に活動プログラムを編成。	独自性	H16年度	教育センター

No.	取組名	概要	区分	開始年度	所管課
<b>&lt;生活環境分野&gt; 6取組</b>					
1	もったいない運動の推進	・ひと・もの・まちを大切にする本市独自のもったいない運動について、認知度の向上を図るため、情報発信を行う。 ・もったいない運動の実践者を拡大するため、「もったいない運動市民会議」を中心とした事業の展開の充実を図る。	独自性 先駆的	H17年度	環境政策課
2	「宇都宮市環境協定」の推進	・市と事業者との間で、環境負荷への低減等に係る協定を締結 ・工場見学会やパネル展示、騒音・振動の測定機器の貸し出しなど	先駆的	H20年度	環境保全課
3	水道料金等の収納率	・水道料金 98.56% (H26中核市2位) ・下水道使用料 97.94% (H26中核市2位)	トップクラス	H20年度	サービスセンター
4	水道施設におけるクリーンエネルギーの導入	・太陽光発電設備、水道施設の特徴を生かした小水力発電設備を、中核市の水道事業者で初めて導入 ・再生可能エネルギー利用率、中核市の水道事業者中2位 (H25水道事業ガイドライン指標一覧より)	先駆的	H19年度	水道管理課
5	水道事業における環境負荷の低減	・「配水量1m <sup>3</sup> あたりCO2排出量」の少なさ、中核市の水道事業者中5位 (H25水道事業ガイドライン指標一覧より)	トップクラス	H19年度	水道管理課
6	安全で良質な水への取組	・ISO9001及び水道GLPの認定を取得、両認定の取得は給水人口25万人以上の水道事業者で初 ・「塩素臭から見たおいしい水達成率」、中核市1位 (H25水道事業ガイドライン指標一覧より)	先駆的	H20年度	水道管理課
<b>&lt;産業・経済分野&gt; 6取組(※下線は、H27年度からの新たな展開)</b>					
1	UJIターン起業促進補助金	市外からのUJIターンによる新規起業者を対象に、事業・生活拠点に関する経費、法人設立経費を補助	先駆的	H20年度	産業政策課
2	宇都宮版CSRの構築	企業と市民、行政の協働によるまちづくりを促進	独自性	H20年度	商工振興課
3	おもてなし運動の推進	本市来訪者の満足度向上を図るために、「おもてなし推進委員会」と連携して市民のおもてなしの心の醸成を図るとともに、民間事業者と一体となって受入環境の向上を図る。	独自性	H17年度	観光交流課
4	施設愛称によるプロスポーツ応援事業	本市を拠点に活動するプロスポーツクラブに対する市民の愛着と連帯感の醸成、及び本市のブランド力向上を目指すために、市有施設にプロスポーツクラブ名を冠した愛称を付与する。	独自性	H21年度	観光交流課
5	ジャパンカップサイクルロードレースの開催	・アジア最高位のワンデーレースであるジャパンカップサイクルロードレースを森林公園で開催 (H4～) ・日本で初となる、トッププロによる「観戦型クリテリウム(周回型レース)」を中心市街地で開催 (H22～) ・宇都宮城址公園特設コースを会場に、宇都宮シクロクロスシリーズAJOCC:日本シクロクロス競技主催者協会)の第1戦を <u>ジャパンカップイベントとして開催 (H27)</u> ・ <u>ジャパンカップミュージアムの開設や「ホープフルクリテリウム」の開催など様々な関連イベントを展開</u>	トップクラス	H14年度	観光交流課
6	競輪場におけるファミリー型レストランの設置	競輪場来場者のみならず、八幡山公園来園者等も利用でき、競輪観戦ができるファミリーレストランを場内に設置	独自性 先駆的	H21年度	公営事業所

No.	取組名	概要	区分	開始年度	所管課
<b>&lt;都市基盤分野&gt; 5取組</b>					
1	大谷石蔵(旧公益質屋)の活用事業	固有の資源である大谷石蔵(築70年超)を民間レストランに活用	独自性	H21年度	地域政策室
2	地域住民が主体となった地域内交通の実施	地域住民が主体となり、運行計画を決定し、地元自治会や企業等から協賛金を募るなど、地域内交通を運営(地域の実情に合わせた独自の運行方式)	独自性	H19年度	交通政策課
3	「自転車のまち宇都宮」の推進	プロサイクルロードレースチーム宇都宮ブリッツェンとの連携等により、施策事業を総合的に展開	独自性	H22年度	道路建設課
4	組合施行による市街地再開発事業の推進	組合施行による市街地再開発事業の完了地区数7地区	トップクラス	S61年度	市街地整備課(再開発室)
5	「もったいないの森 長岡」植樹事業	「樹林地の再生」をコンセプトにした、最終処分場跡地(長岡最終処分場第2埋立地跡地)の市民協働による植樹事業	先駆的	H20年度	緑のまちづくり課
<b>&lt;都市経営・自治分野&gt; 7取組(※下線は、H27年度からの新たな展開)</b>					
1	ネットワーク型コンパクトシティ構想の創出	・本市の人口規模・構造や、都市活動に見合った将来の都市像として、本市独自の多核連携型(拠点化、ネットワーク化)コンパクトシティの形成 ・H26年度に「ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン」を策定	独自性 先駆的	H26年度 (H20年度)	政策審議室
2	宇都宮大学での「実践・宇都宮まちづくり」講座	宇都宮大学において、全国の市町村で初となる本市職員による講義を実施	独自性 先駆的	H20年度	政策審議室(市政研究センター)
3	政策特集の作成	市政の重要課題等の特集を組み、広報紙の添付ハガキ等により、市民の意見や提案を聴取(年4回)	独自性	H15年度	広報広聴課
4	宇都宮ブランド戦略事業の推進	・市民参加型都市ブランド戦略「宇都宮プライド」の展開 ・情報発信拠点としてアンテナショップ「宮カフェ」を中心商店街に設置、運営 →中高生と共同で「宇都宮愉快スイーツプロジェクト」実施(H27) ・宇都宮の暮らしの良さを伝える「ダブルプレイス(2地域生活)」の発信 →専用ウェブサイト「宇都宮と愉快地に過ごす100のヒト」開設(H27)	独自性 先駆的	H20年度	広報広聴課
5	まちづくりセンターの設置・運営	地域活動団体や非営利活動団体、企業、行政が適切な役割分担のもと、公共的課題の解決に自主的に取り組む市民協働の拠点施設として設置	先駆的	H23年度	みんなでまちづくり課
6	DV被害者の自立支援事業の実施	DV被害者の「居場所」を整備し、民間支援団体との協働により、被害者とその子どもに対し、自立支援プログラムを実施	独自性 先駆的	H21年度	男女共同参画課
7	「宇都宮市配偶者からの暴力対策基本計画」の推進	DVを社会的な問題としてとらえ、全国に先駆けた取組を展開(中核市初の基本計画、全国の市町村初のDV被害者アンケート、中核市初の中学生へのデートDVアンケート、本市独自の連携組織)	独自性 先駆的	H20年度	男女共同参画課